

解 答

| | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 (A) | 2 (B) | 3 (A) | 4 (A) | 5 (D) | 6 (C) |
| 7 (C) | 8 (C) | 9 (C) | 10 (D) | 11 (B) | 12 (A) |
| 13 (A) | 14 (C) | 15 (B) | 16 (C) | 17 (B) | 18 (B) |
| 19 (A) | 20 (D) | | | | |

1. 「ジミーの自転車のタイヤがパンクしたので、彼は父親にタイヤを見てくれるように頼んだ」

▶ 選択肢はすべて自動詞lookが変化した形である。空欄前の他動詞askの語法がポイントである。ask A to doで「Aに～するように頼む」という意味である。

□ ask[want/expect] A to do 「Aに～するように頼む」

The receptionist asked me to call back after lunch.

(受付係は私に、昼食後に電話をかけ直すように頼んだ。)

2. 「サラは幸せそうだ。今日の夕方早くに、トムと楽しい時を過ごしたに違いない」

▶ 選択肢はすべて『助動詞+have』の形である。目の前で幸せそうにしているサラに対して、過去(earlier this evening)の強い推量を働かせている。よって(B)must have done「～したに違いない」が正解。might have done「～したかもしれない」ならば過去の弱い推量になるが、(A)might do「～するかもしれない」は現在の弱い推量である。

助動詞+have done——過去のことに對する現在の推量

□ must have done 「～した[だった]に違いない」

▶ 過去のことに對する現在の『確信のある推量』を表す。

□ may have done 「～した[だった]かもしれない」

▶ 過去のことに對する現在の『確信の持てない推量』を表す。

▶ might have doneもほぼ同じ意味を表す。

□ cannot[can't] have done 「～した[だった]はずがない」

▶ 過去のことに對する現在の『確信のある否定的推量』を表す。

▶ could not[couldn't] have doneもほぼ同じ意味を表す。

3. 「あそこのレジで買い物の支払いをしてください」

▶ 選択肢はすべて前置詞である。このような設問は前置詞の意味を問われている場合と、他の語との組み合わせを問われている場合がある。本問は前者で、〈場所や時の1点〉を表す前置詞はatである。

場所を表すat/in/onの基本用法

□ at——場所の一点(=地点)

at the center「中央に」 at the corner「角で」

□ in——広い場所の中/囲まれた内部

in Japan「日本で」 in the room[building]「部屋[建物]の中で」

□ on——面との接触⇔off「～から離れて」——分離

*onは上面だけでなく、下面または側面との接触も表す。

on the table「テーブルに」 on the ceiling「天井に」 on the wall「壁に」

4. 「先生は経験豊富だったけれども、それでも間違った」

▶ 空欄に入る語がカンマで区切られた前後の節をつないでいるので、正解は接続詞である(A)と(C)にしばられるが、(C)butは等位接続詞なので前後の文をつなぐ場所以外には入らない。C(補語)though[as] S+Vで「SはCであるが」という意味であるので(A)が正解。またexperiencedは形容詞で「経験豊かな」という意味である。

□ 形容詞[副詞/名詞]+though[as] S+V 「Sは～だけれども」〔『譲歩』の接続詞〕

Strange though it may seem, I like rainy days.

= Though it may seem strange, I like rainy days.

(奇妙に思われるかもしれないが、私は雨の日が好きだ。)

5. 「ケンが私が仕事を終えるまで帰宅させてくれないだろう」
- ▶ 選択肢には動詞finishの(A)過去形, (B)過去完了形, (C)未来形, (D)現在完了形が並んでいるので、時制を決定する要素を文中に探す方針で解く。接続詞untilで導かれ、『時』や『条件』を表す副詞節中では未来(完了)の内容でも現在(完了)形を用いなければならないので、現在完了形の(D)が正解である。

[例] I will wait here **until** she comes. (彼女が来るまでここで待っています。)
現在形

6. 「スコットは私が事務所を訪ねる寸前にパソコンを修理してもらっていた」
- ▶ 選択肢(B),(C),(D)は使役動詞としての用法があるが、空欄前後の関係『S(Scott)+()+O(his computer)+過去分詞(repaired)』を満たす用法があるのは(C)hadである。『make+O+過去分詞』の表現もあるが、過去分詞が形容詞化している場合を除くと、make oneself understood(自分の意志を伝える)など、慣用的な表現に限られる。

□ **have [get] A done** 「Aを～してもらう」〔使役〕

I **had** my hair **cut** at a famous beauty salon.

(私は有名な美容室で髪を切ってもらった。)

7. 「ペットには必要以上の食べ物を与えない方がいい。そうでないと、太り過ぎになる」
- ▶ 選択肢(A)which, (B)that, (D)whatは関係代名詞, (C)thanも比較級の語と関連的に用いられる疑似関係代名詞である。通常使われる関係代名詞は(A)whichや(B)thatだが、相関構文なので(C)thanが優先される。

[例] He couldn't accept **more** money **than** he really needed.

(彼は本当に必要なお金以上は受け取ろうとしなかった。)

8. 「政府が近くに幹線道路を作る予定だと知っていたら、私たちはここには引っ越して来なかったのに」
- ▶ 選択肢から動詞moveの時制を決定する問題だと判断できる。Had we known that ... はifを省略した仮定法過去完了の文であるので、主節は仮定法過去になると推測されるので(C)have movedが正解。

■ 仮定法過去完了

基本形：If + S + **had done** ~, S' + 助動詞の過去形 + **have done** ...

「もし(あの時)～だったら、…だったら(に)」と過去の事実と反することを仮定・想像する構文。

9. 「ヘレンは課長に昇進して以来、職場での仕事が2倍になった」
- ▶ 選択肢には前置詞・接続詞・副詞が並んでいるが、空欄は前後の節をつないでいるので前置詞(B)duringと副詞(D)evenは入ることができない。主節が現在完了形、空欄後の節が過去形であるから、(C)since「～以来」が適当である。

10. 「ティムは職場でとても多忙な1日を過ごしたので、ようやく帰宅してほっとした」
- ▶ 選択肢には形容詞・副詞が並んでいる。空欄前後は a () busy day となつて冠詞 形容詞 名詞 いるので、空欄には形容詞busyを修飾する副詞(D)veryが入る。

注意すべき冠詞の位置

- (1) ふつう冠詞は名詞の前に置かれ、名詞に形容詞がついた場合には、
 「a[an] + 形容詞 + 名詞」の語順になる。 a pretty girl 「かわいい女の子」
- (2) 形容詞に副詞veryがついても冠詞は一番前に置かれ、
 「a[an] + very + 形容詞 + 名詞」の語順になる。 a very pretty girl
- (3) 副詞がso/as/too/howの場合は「so[as/too/how] + 形容詞 + a[an] + 名詞」
 の語順になる。 so[as/too/how] pretty a girl
- (4) suchが後ろに名詞を伴うと、「such + a[an] + (形容詞) + 名詞」の語順になる。
 such a pretty girl (= so pretty a girl)

11. 「ボブが映画館に着いた時、その区画をぐるりと囲んで長い列が伸びていた」

- ▶ S=a long () (of people), V=was going right around the blockという関係。
 (A)wait「待ち時間」はVの内容と結びつかない。(C)crowd「群衆, 人ごみ」,
 (D)audience「聴衆, 観客」をlongで修飾するのは不適なので正解は(B)lineである。
12. 「お客様は当レストランで喫煙できませんのでご確認ください」
- ▶ 選択肢はすべて他動詞の用法を持つ『話すこと』に関する動詞であるから、語法に関する問題である可能性が高いと推測できる。空所の前後は, to (他動詞)
 you that ...という関係であるが、選択肢の中でSVO+that節の語法を持つのは目的語
 (A)remindのみである。その他は(B)mention「～に言及する」, (C)comment that
 節「～だと批評する」, (D)repeat「～を繰り返して言う」という意味である。
 remind A that ~ 「Aに～ということを思い出させる[注意する]」
 Her call *reminded* Tom *that* he had his homework to do.
 (彼女からの電話でトムは宿題をしなくちゃいけないのを思い出した。)
- cf. **remind A of B** 「AにBを思い出させる」
 This photograph always reminds me of the trip to Switzerland I took by myself.
 (この写真を見ると、いつもスイスへの一人旅のことを思い出す。)
13. 「トシ、クリスマスパーティーを開くのに適した場所、知ってる？」
- ▶ 選択肢はすべて他動詞で空所のあとは目的語が一つあるだけなので、語法に関する問題ではないと推測し文意から選択肢をしぼっていく方針で解く。Christmas partyを開くのであるから、(A)holdを選びhold our Christmas partyとするのが適切である。(B)openはopen the doorなど「(物理的に)～を開ける」なので不適である。(C)gather「～を集める」(D)assemble「～を集める/～を組み立てる」
 hold [have/give/throw] a party 「パーティーを開く」
 know of A [doing] 「(人・物・事)を間接的に知っている/～があるのを知っている」
 I *know of* her staying in Tokyo.
 (彼女は東京に滞在中だそうですね。)
14. 「デイヴィッドは最近太ってきているので、医者がもっと運動するように勧めた」
- ▶ 空所のあとは名詞である。選択肢はすべて他動詞の用法をもつので語法の面から正解をしぼっていく。(A)insistが他動詞用法で使われるときはinsist that節の形で使われ、本問ではinsist onならば正しい形である。(B)instruct「～に指示する」が目的語にとるのは『人』であるので不可。(C), (D)は用法として正しいが、文意から(C)recommend「～を勧める」が正解。
 recommend A to do 「A(人)に～することを勧める」
 His doctor recommended David to do more exercise.
 (医者はデイヴィッドにもっと運動するように勧めた。)
- insist on[upon]** ~ 「～を主張する」
 instruct A to do 「A(人)に～するように指示する」
15. 「ジェイコブはこの仕事を長年やっているの、彼は適切なやり方を知っているのが当然だと私は思っている」
- ▶ 空所の直後はthatが省略された名詞節になっているので、空所にはthat節を目的語にとる語法をもつ他動詞が入ると考えられる。(C)regardと(D)approveはこの語法をもたない。(A)decideと(B)assumeはthat節を目的語に取るが、文意から(B)assumeが正解。
 assume that ~ 「～だと想定する」
 assume A to be B 「AをBであるとみなす」
 decide that ~ 「～だと決める」
 regard A as B 「AをBと見なす」
 approve of ~ 「～を承認する」

16. 「ジャネットは一瞬ちらっと見ただけだから、トニーの新車がどんなだったか君にうまく言えないよ」

- ▶ 選択肢はすべて名詞で(A)sightと(C)glimpseはどちらも「見ること」に関する名詞である。そこで空所の前後関係を見ると、**caught a quick () of it**とあるので、空所には(C)glimpseを入れて「一瞬それをちらりと見た」とするのが適切である。(A)sight「視力, 見ること」, (B)impression「印象」, (D)hint「暗示, 手がかり」。

□ **catch[get/have/provide] a glimpse of ~**「~をちらっと見る」

I caught a glimpse of Mt. Fuji from the window of the train.

(列車の窓から富士山がちらっと見えた。)

cf. **take[have/give] a glance at ~**「~を(意図的に)さっと見る」

She took a quick glance at her watch.

(彼女はさっと時計に目をやった。)

17. 「今日の会議のために、ジャックはリサに軽食を持参するように頼んだ」

- ▶ bringは他動詞で直後に前置詞をとることはできないので(A), (C), (D)のような語法はもたない。bring over A [A over]で「A(物)を持って来る」という意味なので(B)が正解である。このoverは副詞で「~を超えて」という意味である。

18. 「ジョニーは、母親が一部始終を見ていたにもかかわらず、自分がクッキーを1枚、クッキー一瓶から取ったことを否定した」

- ▶ 選択肢には拒絶・否定にまつわる似たような意味の動詞が並んでいるので、語法に関する問題であると推測される。空所の直後に**taking a cookie**(クッキーを取ること)という動名詞があるので、空所には動名詞を目的語にとる他動詞が入ると考えられる。選択肢の中で動名詞を目的語にとるものは(B)deny doing「~しないと言う」のみである。その他は(A)reject「(援助・提案・申し出など)を拒絶する」, (C)disagree with ~「~に反対する」, (D)refuse to do「~することを拒む」という用法で使われる。

□ **deny doing**「~しないと言う」

He denied taking an umbrella with him because the weather was fine.

(天気が良かったので彼は傘を持っていくことを断った。)

動名詞だけを目的語にとる動詞

| | | | |
|-----------------|-------------|-------------------|--------------|
| □ mind | 「~するのを気にする」 | □ miss | 「~しそこなう」 |
| □ enjoy | 「~するのを楽しむ」 | □ give up | 「~するのをやめる」 |
| □ admit | 「~するのを認める」 | □ finish | 「~するのを終える」 |
| □ escape | 「~するのを逃れる」 | □ postpone | 「~するのを延期する」 |
| □ stop | 「~するのをやめる」 | □ deny | 「~しないと言う」 |
| □ evade | 「~するのを避ける」 | □ consider | 「~することを考える」 |
| □ avoid | 「~するのを避ける」 | □ imagine | 「~することを想像する」 |

19. 「スーザン、あなたは夏休み中の時間をどうやって過ごす予定？」

- ▶ during the summer break(夏休みの間)とあるので、(A)spend「~を過ごす」が最もふさわしい。

20. 「最近、エイミーは前に持っていたのよりもっと進歩したスマートフォンを買った」

- ▶ 空所は直後のone(=her smart phone)を修飾していると考えられるので、限定用法の形容詞(D)previous「以前の」が正解である。

[例] *This article is worse than the previous one.*

(この記事は前のより悪い。)